

石川県版

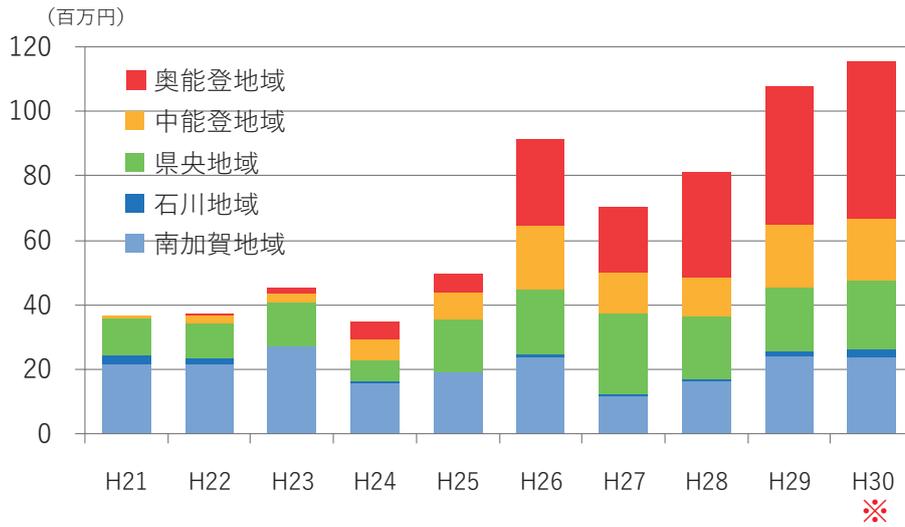
獣害対策マニュアル (イノシシから集落を守る)



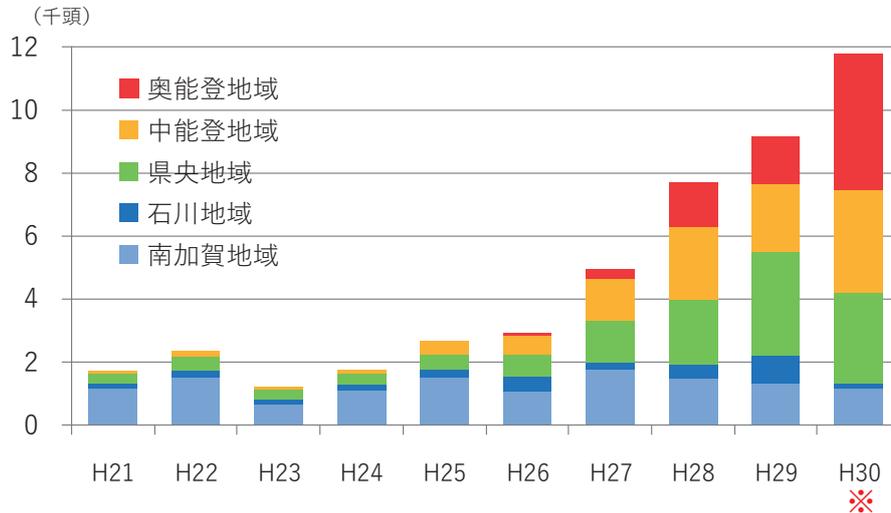
平成31年(2019年)3月

石川県農林水産部農業安全課

イノシシによる農作物被害額の推移



イノシシ捕獲数(有害捕獲+狩猟)の推移



※ H30の被害額、捕獲数の値は、ともにH30年12月末時点の速報値

奥能登地域・・・輪島市、珠洲市、穴水町、能登町

中能登地域・・・七尾市、羽咋市、志賀町、宝達志水町、中能登町

県央地域・・・金沢市、かほく市、津幡町、内灘町

石川地域・・・白山市、野々市市

南加賀地域・・・小松市、加賀市、能美市、川北町

表紙の写真

津幡町で9頭のイノシシの群れを一網打尽

はじめに

本県のイノシシは、明治から大正期に一度絶滅したとされていて、昭和29年度から断続的に捕獲の記録はあるものの、一桁台で推移していました。

しかしながら、平成2年以降に急激に捕獲数が増加し、平成10年には100頭、平成17年には1,000頭、平成22年には2,000頭、平成27年には4,000頭、平成29年には9,000頭を超えました。

これは、近年、野生動物との緩衝地帯となっていた里山地域における人の活動の衰退によって、その緩衝地帯としての機能が低下するとともに、イノシシが里山地域で栄養価の高い農作物などを食べることで繁殖力が向上したことにより、急激に生息数が増大したためと考えられ、それに伴い人身被害を含んだ農林業被害の増加につながっています。

現在、川北町、野々市市、内灘町を除く県内全域の丘陵から山間地にイノシシが分布していると見られ、能登地区では捕獲数が年々増加していることから、生息数や生息域が拡大しているものと考えられます。

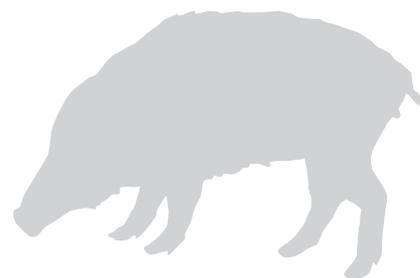
イノシシによる農作物被害は、平成10年度に加賀市（旧山中町）で確認されて以降、年々、被害地域が拡大し、平成19年度には能登地区（宝達志水町）でも被害が確認され、平成22年度には珠洲市などの奥能登にまで急速に拡大しました。

被害を受ける農作物は、主に水稻の食害と踏み倒しによるもので、被害額全体の約9割を占めています。残りの約1割がタケノコの被害で、野菜や果樹の被害も確認されています。

イノシシによる農作物被害は、営農意欲が減退し耕作放棄地や離農の増加につながるなど、発生を防止するための対策が重要になります。被害対策は、イノシシを寄せ付けない（生息環境管理）、イノシシから守る（防護柵の設置）、イノシシを減らす（捕まえる）の三本柱が基本で、どれか1つでも欠けると効果は上がりません。それぞれの被害対策を組み合わせることで総合的に取り組む必要があります。

本冊子では、被害対策の三本柱の説明を中心に、優良事例なども紹介していますので、イノシシの被害対策に取り組む皆さんの一助となれば幸いです。

みんなでやれば、被害は減らせます！



目次

はじめに

目次

I イノシシの基礎知識 1

II イノシシの被害対策の三本柱 2

1 生息環境管理（寄せ付けない対策） 3

2 防護（守る対策） 7

3 捕獲（減らす対策） 14

【参考】石川県内の獣肉処理施設 17

イノシシおすすめレシピ 18

III 優良事例の紹介 20

1 集落ぐるみの被害対策＜七尾市中島町西谷内＞ 22

2 イノシシの捕獲効率向上＜輪島市町野町金蔵＞ 28

3 複数集落で取組む被害対策＜ザ・そんぼ夢創の会(志賀町)＞ 32

IV 被害対策はだれがやる？ 35

V イノシシ被害対策チェックシート 36

相談窓口（お問い合わせ先） 裏表紙

I イノシシの基礎知識

まず相手（イノシシ）を理解することが、被害対策の第一歩です。

生態

食べ物

雑食性で、人が食べるものはほぼすべて食べます。農作物などの植物の他にも、草木やその根、昆虫や小動物など様々なものを食べます。

＜例＞ドングリ、タケノコ、果樹、ひこばえ（2番穂）、生ゴミなど

棲み処

落葉広葉樹林や竹林、雑草地などの身を隠せる茂みや藪を好みます。これらの場所はエサ場に近い場合が多いです。

＜例＞元薪炭林、耕作放棄地など

行動

本来は昼間に行動する動物（昼行性）ですが、人の活動が少ない夜間にも活発に行動し、1日の活動のほとんどをエサ探しに費やすといわれます。

人に対する警戒心が薄れた（人慣れした）個体は昼間でも活発に行動するようになります。

群れのイノシシは、メスを中心とした母系の集団で、1歳を過ぎたオスは群れを離れて単独で行動するようになります。

繁殖

繁殖は年1回（12～2月頃）で、4～6月頃に平均4～5頭を出産します。

春に産まれたイノシシ（メス）は翌年の秋（1歳半）に妊娠が可能となり、その翌春に出産（2歳）し、以後、毎年出産します。

出産後の早い時期に子（ウリボウ）をすべて失った母イノシシは、再び発情し妊娠・出産することもありますので、ウリボウだけを捕獲しても個体数はすぐに回復してしまいます。

特徴

身体能力

障害物に対しては、基本的には跳ばずにくぐり抜け、70kg程度の石も動かします。

人より速く走り、雪があっても活動します。泳ぎも得意です。

鼻はイヌ並みの嗅覚を持つといわれ、地面を掘るほか、対象の感触をさぐる際にも使います。

体毛は太く、剛毛で、電気を通しにくくなっています。

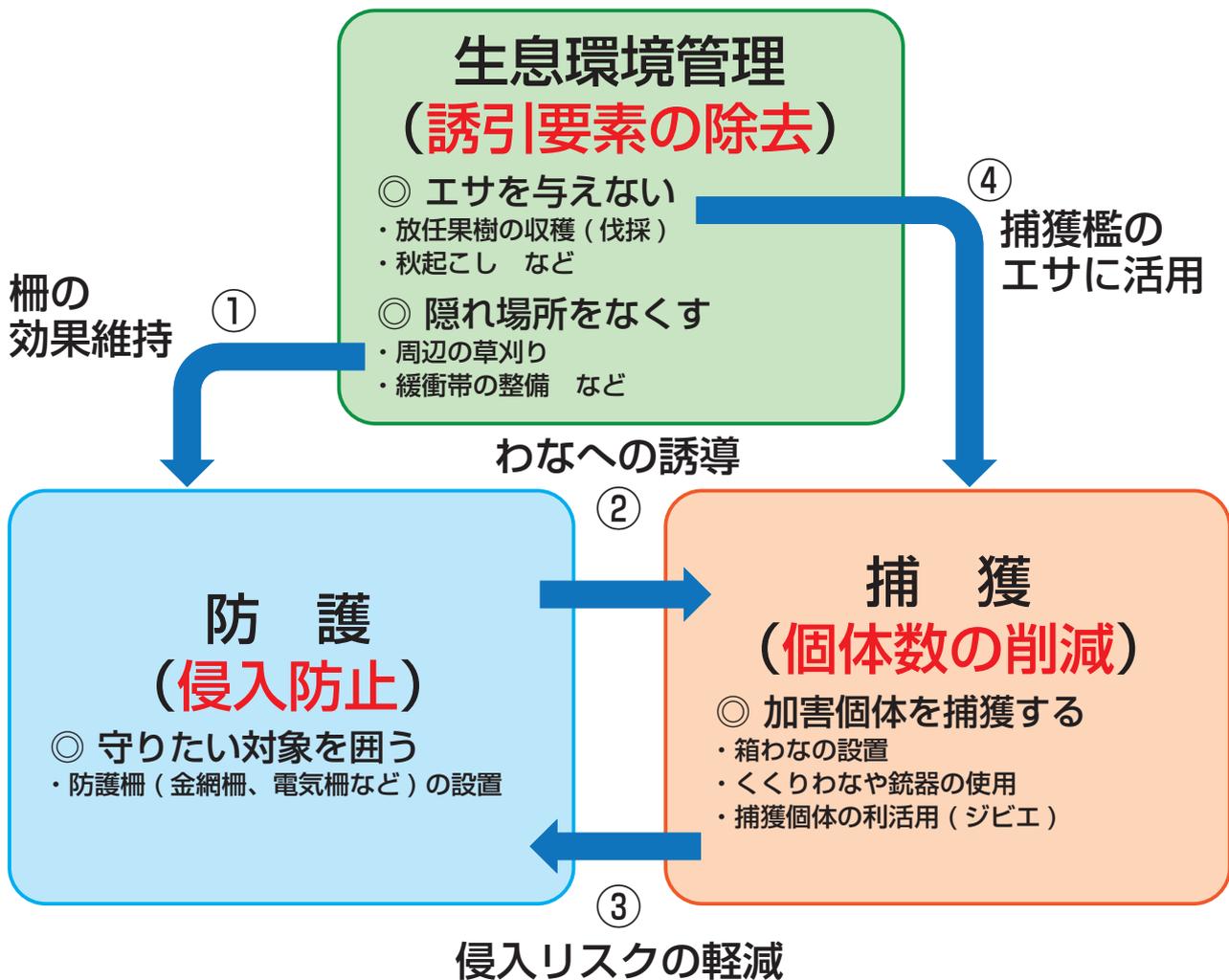
学習能力

高い学習能力を持ち、エサや危険に関することはすぐに学習してしまいます。

とても臆病で注意深く警戒心が強い反面、安全が確認できると大胆な行動をとります。

Ⅱ イノシシの被害対策の三本柱

被害対策の基本は **生息環境管理** **防護** **捕獲** の三本柱です。



①柵周辺の雑草地を無くすことで柵に近づくイノシシを減らすことができ、柵を破壊、突破されるリスクが低下します。

②農作物をしっかり守ることで相対的に箱わな内のエサの魅力が向上し、捕獲しやすくなります。

③捕獲により個体数が減れば柵を破壊、突破されるリスクが低下します。

④未収穫の果樹を箱わなのエサとしても活用できます。

三本柱のうち、どれか1つでも欠けると被害対策の効果が思うようにはあがりません。総合的に3つの対策に取り組みましょう。

1 生息環境管理(寄せ付けない対策)

エサを与えない

イノシシが集落に来る一番の目的は「食べ物(エサ)」を得るためです。集落のイノシシのエサには2種類あり、1つは食べられると「人が困る」エサで、もう1つは食べても「人が困らない」エサです。

「人が困る」エサ

水稲、野菜、果樹などの農作物、公園等の芝生(根やミミズ)など

「人が困らない」エサ

農作物の収穫残さ、ひこばえ(2番穂)、収穫されない野菜やカキ、クリなどの果樹、ドングリなどの堅果類、お墓のお供え物、雑草、生ごみ、昆虫、爬虫類など

人が困るエサも困らないエサも、イノシシにとってはどれも食べられる同じエサです。集落に行けば「安全に安心して大量にエサが食べれた」という経験をさせないため、ひこばえが出る前の秋起こしや、収穫できない果樹の伐採など、農地周辺や集落内のエサを除去し、イノシシに「エサ場」と認識させないことが重要です。



隠れ場所をなくす

イノシシは基本的に人を恐れているため、人に見付からないように活動していますので、安心して姿を隠すことのできる耕作放棄地や竹林、農地周辺の藪などにじっと潜みながら、周りの様子を伺い安全確認しています。

このような、人に見付からず身を隠すことのできる藪などがエサ場のすぐ近くにあると、そこは安心して休憩でき、ちょっと動けば簡単にエサを得られるような、イノシシにとっての高級リゾートホテルになってしまいます。



イノシシが安心して身を隠せるような耕作放棄地などを刈り払って見通しを良くすることで、「人に見付かってしまう」、「怖い」と感じる場所にするのが重要です。



これらの取り組みによって、イノシシを集落に近づけさせない集落環境を作りましょう。

●改善が必要な事例



稲刈り後にイノシシのエサとなる
ひこばえ（2番穂）が生えている。



エサとなる果樹（カキやクリ等）
が収穫されずに放置されている。



エサとなる野菜の収穫残さや生ご
み等が農地やその周辺に放置され
ている。



作付けしている水田のすぐ近くに
耕作放棄地があり、イノシシが掘
り返した痕跡がある。



お墓のお供え物
が片づけられず
に残されたまま
になっている。

●優良事例



稲刈り後にひこばえが生えないように秋起こしをしている。



農地周辺の林縁部を刈り払うことで緩衝帯を設置し、見通しの良い環境を整備した。



電気柵の内側に収穫残さ等の捨て場を設置している。

ひと手間かけて環境整備することでイノシシが出てきにくい集落になります。

がんばろう!



2 防護(守る対策)

環境管理

防護

捕獲

守りたい対象を囲う

イノシシが集落やその周辺に出没し農作物に被害を出すのは、そこでエサを得るためであり、そのイノシシの侵入を防ぐため、電気柵や金網柵、ネット柵などを設置します。

これらの柵は設置することがゴールではなく、イノシシの侵入を防ぎ、被害を抑えることが目的なので、設置後の適切な維持管理によって柵の効果を最大限に維持し「ここではエサを得られない」と思わせることが重要です。

どの種類の柵であっても、それぞれに一長一短があるので、柵の種類に応じた適切な設置と維持管理が必要となります。

◎電気柵

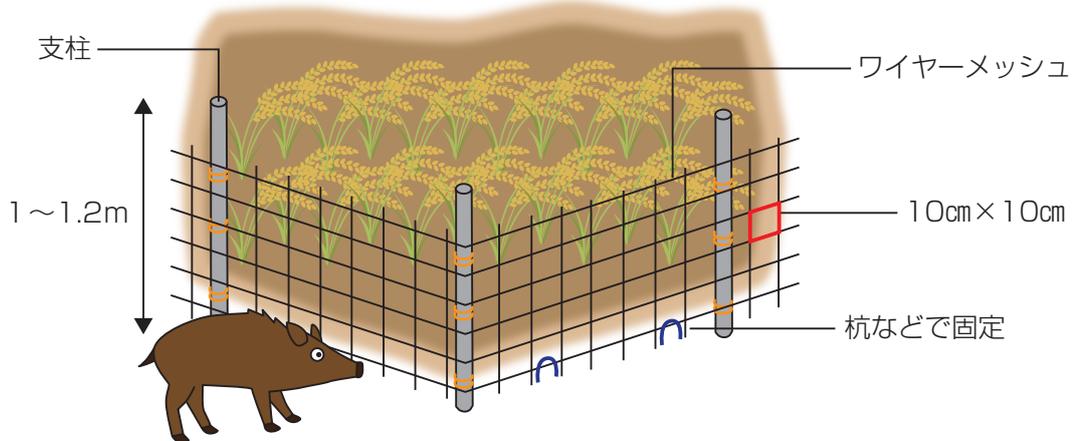
- ・あらゆる柵の中で唯一、イノシシに痛みを与えることができる柵で、痛みを覚えさせることによって侵入を防ぐ心理柵です。
- ・安価で設置が容易なうえ、適切に設置、維持管理すれば非常に高い侵入防止効果があります。
- ・漏電防止のため毎日の電圧チェックと、定期的な見回り、草刈りが必要で常に5～6千ボルト以上を維持しましょう。
- ・2段張りで地面から20cm間隔に設置し、必ずイノシシの鼻先で線に触れさせる必要があります。
- ・冬期は撤去しましょう（雪解け後に再度設置）。



電気柵の下に電気を通しにくいコンクリートやアスファルト、敷砂利、防草シートのほか、乾いた枯草や積雪などがあると、電気柵の効果が著しく低下するので注意が必要です。

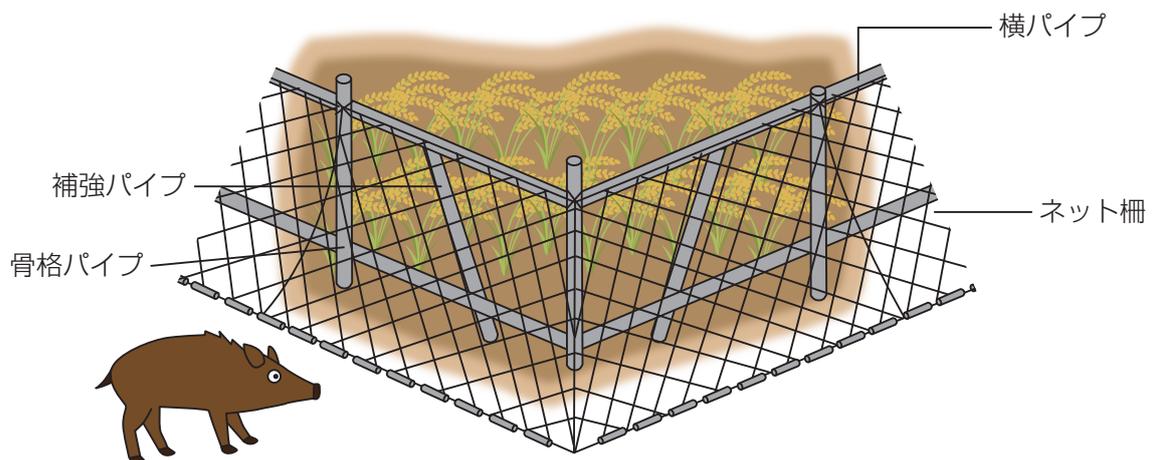
◎金網柵、ワイヤーメッシュ柵

- ・強度のある金属製の柵でイノシシの侵入を物理的に防ぎます。その分とても高価です。
- ・イノシシは地面と接する部分（柵の下部）を持ち上げたり、穴を掘って侵入しようとするため、定期的な見回りと破損個所の修繕などの維持管理が必要です。
- ・冬期に撤去する必要はありません。



◎ネット柵

- ・金網柵に比べ安価で整備できますが、強度が弱いため噛み切られることがあります。
- ・定期的な見回りと破損個所の修繕などの維持管理が必要です。
- ・起伏のある場所や斜面でも地形に合わせて設置しやすいです。
- ・冬期に撤去する必要はありません。

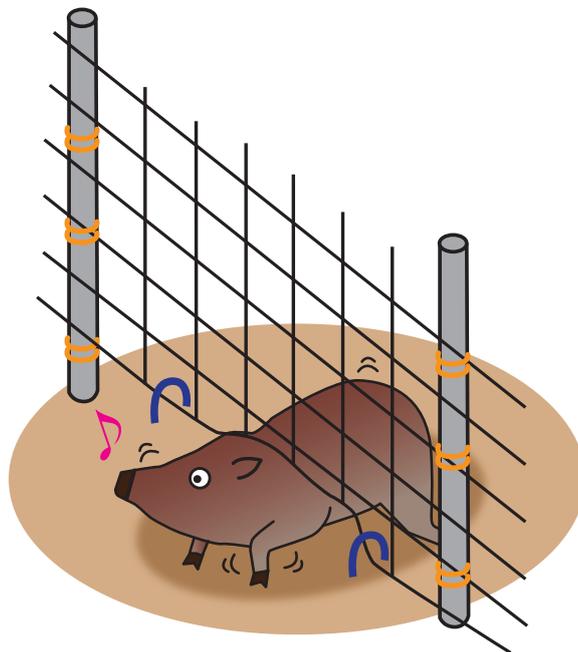


◎忌避資材(効果は一時的)

・光や音、ニオイなどによる忌避資材は短期的・限定的な効果しか得られません。これは環境の変化に一時的に戸惑うためであり、すぐに慣れてしまうばかりか、この光や音、ニオイのある場所に「エサがある」と結び付けて学習してしまう恐れもあります。



イノシシをはじめ野生動物は基本的に、障害物を飛び越えるよりもくぐり抜けることを優先します。跳躍により脚をケガすれば、危険から逃れることができなくなったり、エサを探すことができなくなったりするためです。



電気柵

●改善が必要な事例



電気柵が畦の端に設置され、イノシシが柵線の手前で探るスペースが無い
ため、勢いで突破されるリスクがある。



倒伏したイネや伸びた雑草が柵線
に触れて漏電している。



電気柵が夜間のみでの通電となっ
ている。



柵線に木の枝や金属板（トタン）
等が落下し漏電している。

●改善が必要な事例



電気柵の支柱を補強した金属製のパイプに柵線が触れ漏電している。



排水溝をまたいで電気柵が設置されており、イノシシが入り込める隙間がある。



電気柵が、電気を通しにくいアスファルトのすぐ近くに設置されており、電圧が低い。



草刈り時にアース線が切断されたまま放置されている。

恒久柵他

●改善が必要な事例



イノシシが金網柵の下側から潜り込んだことで穴が開いている。



金網柵が途中で途切れていて、イノシシが通り抜けている。



金網柵周辺が雑草に覆われていて、イノシシが自由に柵に近付くことができ、穴を開けられてもすぐに発見できない。



ダミー柵（ビニールひも、有刺鉄線等）が設置されている。

●優良事例



設置する場所の地形に合わせて地面から20cm間隔で電気柵を設置している。



アース全体を埋設し、線の立ち上がり部分を塩ビ管等のパイプに通して保護している。



緩衝帯を整備し、その中に電気柵を設置している。

電気柵充電・配電確認当番表

※午前8時に検電の事

平成29年 9月

日	月	火	水	木	金	土
					1 山城	2 春田
3 梅田	4 北山	5 桶田	6 干場	7 梅田	8 山城	9 北山
10 桶田	11 干場	12 梅田	13 山城	14 春田	15 北山	16 桶田
17 干場	18 梅田	19 山城	20 春田	21 北山	22 桶田	23 干場
24 中村	25 梅田	26 山城	27 春田	28 北山	29 桶田	30 干場

上記の日程で都合が悪い場合は、話し合いの上交代してください

電気柵の点検当番を決め、毎日の点検状況を記録している。

3 捕獲(減らす対策)



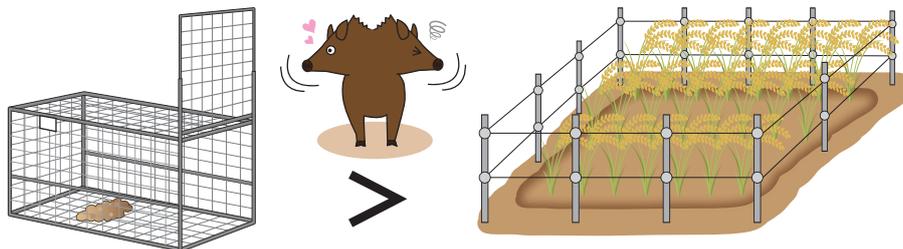
加害個体の捕獲

被害防止に効果の高い捕獲とは、被害を引き起こしているイノシシ（加害個体）を確実に捕まえることです。

山奥のイノシシは集落周辺の農作物に依存せずに生活しています。このようなイノシシを10頭捕獲するより、農作物を食べにくる集落周辺の1頭を捕獲する方が被害は減少します。



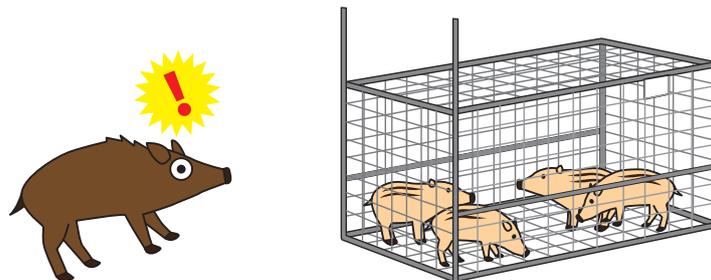
農作物を食べにくるイノシシを捕まえるには、そのイノシシにとって箱わなの中のエサが魅力的だと感じさせる必要があるため、生息環境管理と防護にしっかりと取り組み、農作物を食べさせないことが重要です。



イノシシの数を減らすには、成獣のメスを捕獲しなければなりません。幼獣（ウリボウ）ばかりを捕獲していても、母親を捕まえない限り再び出産し生息数はすぐに元に戻ってしまいます。

また、目の前で我が子が捕獲された母イノシシは、箱わなへの警戒心が高まり、箱わなでの捕獲が難しくなってしまいます。

幼獣を捕まえるときは、母親も含めた群れをまとめて捕獲するようにしましょう。



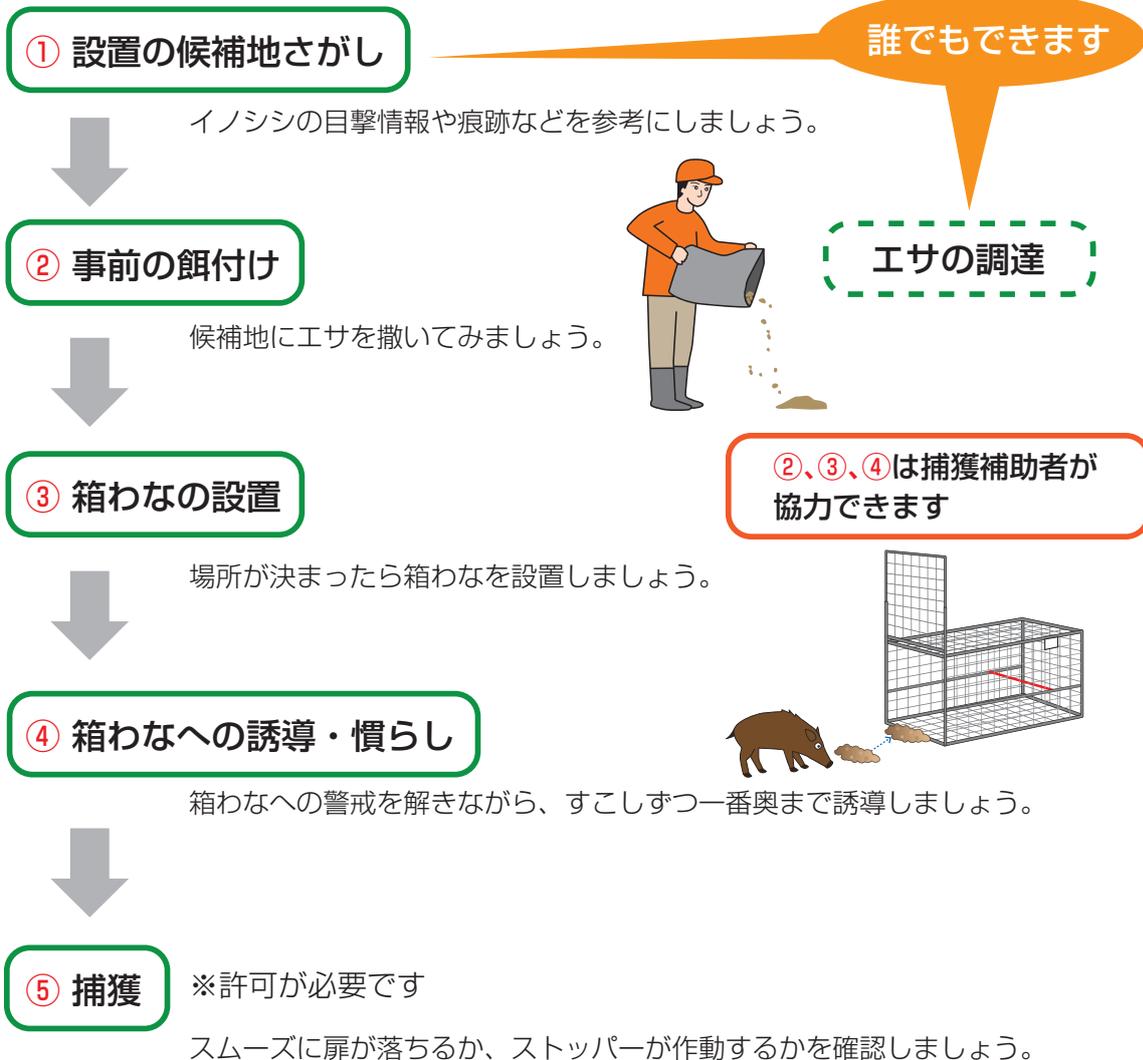
箱わなを警戒してしまったイノシシは、箱わなでの捕獲は限りなく難しくなってしまいますので、他の方法（銃器やくくりわな）による捕獲も考えてください。

集落で協力して捕獲体制を整えましょう。エサ（米ぬか）の調達など、比較的容易に協力できることもあります。

また、狩猟免許が無くても、講習を受ければ捕獲補助者として箱わなの見回りやエサやり、捕獲したイノシシの処分（運搬や埋設など）などに取り組むこともできます。

詳しくは、お住いの市町の鳥獣被害対策担当窓口までお問い合わせください。

捕獲までの流れ（箱わな）



捕獲したイノシシはジビエとしての利活用も考えましょう。

※詳細は「石川県イノシシわな捕獲マニュアル」に掲載しています。
<<http://www.pref.ishikawa.lg.jp/sizen/inoshishimanyuaru.html>>

●改善が必要な事例



エサの米ぬかの量が多く腐敗しており、適切に管理されていない。



仕掛けのケリ糸が低く、幼獣だけが入っても扉が落ちるようになっている。

●優良事例

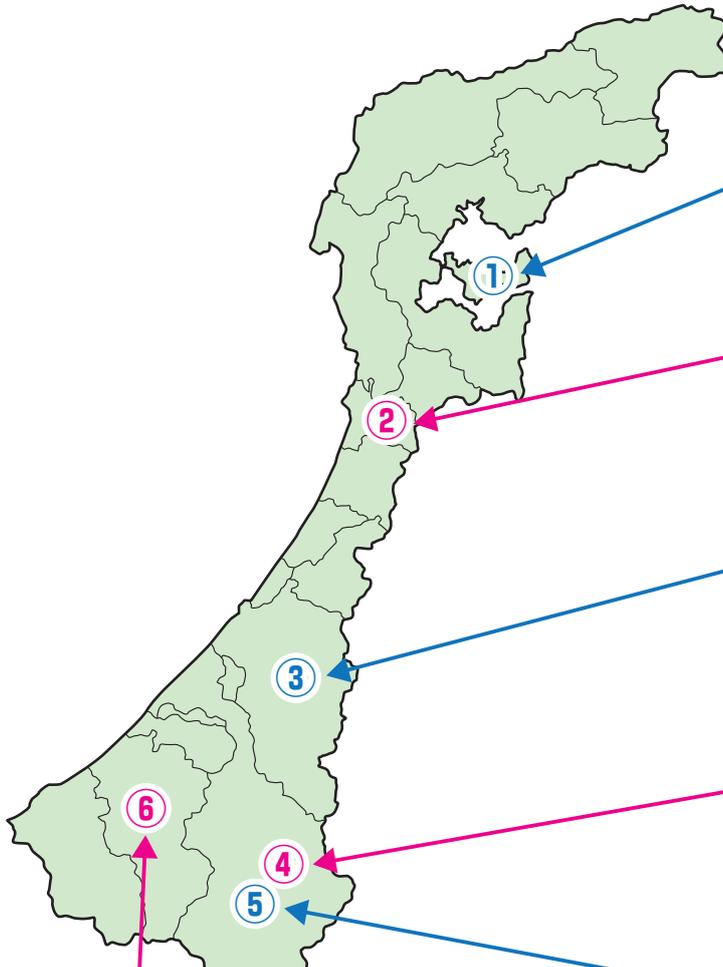


箱わなの上に雨除けを付け、下にコンパネ等を敷き、湿気によるエサ（米ぬか）の傷みを抑えている。



箱わなの仕掛け部分を扱いやすく、動作不良の起きにくいシンプルなものに改良している。

石川県内の獣肉処理施設



①山本ジビエ処理施設

七尾市能登島須曾町
☎0767-57-2843
★アットホームな個人経営
主に自ら捕獲したイノシシを販売



②羽咋市獣肉処理施設

羽咋市飯山町ヲ32
☎0767-26-2944
★「のとしし」でブランド化に取り組む
ふるさと納税返礼品で人気



③ジビエ工房三谷

金沢市高坂町甲15-1
☎076-225-5800
★金沢市内で地域に根ざした施設
地域活動にも積極的に参加



④ハンターベースジャパン

(クラフトワークスER)
白山市河内町下折50-3
☎076-272-2112
★自社経営飲食店「goes」でも使用
猪鹿皮を利用したバック等も製造し好評



⑤白山ふもと会

白山市東二口卯117-1  白山麓猪
☎076-256-7088
★県内初の施設でシカも取扱う
「白山麓猪」として先駆けて
ブランド化に取り組む

⑥(仮称)南加賀獣肉処理施設

小松市内で整備中
(平成31年度中に稼働予定)

「ジビエ」ここで買えます

金沢市	コリヤンハウス精肉総合食材工場	駅西本町4丁目3番5号	076-232-5333
	JA金沢市ほがらか村 野田店	野田町△94-1	076-245-4602
	ナルックス本店(なるわ店)	鳴和1-1-10	076-252-1600
	ナルックスみずき店	みずき1丁目1番地	076-258-1177
金沢市	ジビエ工房三谷	高坂町甲15-1	076-225-5800
	食工房ファミリーエ	木津ハ90-1	076-205-6750
白山市	JAよらんかいねえ広場	井口町に58-1	076-273-3002
	鳥越福祉会青い鳥ワークセンター	杉森町へ1-1	076-254-8182
	白山ふもと会	東二口卯117-1	076-256-7088
	Hunter Base Japan	河内町下折50-3	076-272-2112
	Hunter Base Table	河内町下折50-3	080-9467-6965
	食彩館せせらぎ(道の駅一向一揆の里)	出合町甲36	076-254-2888

白山市	道の駅瀬女	瀬戸寅163-1	076-256-7172
	道の駅めぐみ白山	宮丸町2183	076-276-8931
	山立会	木清西1番地	076-255-5579
市野市々	NOPPOKUN	本町2丁目1-1	076-246-0210
能登市	シャルキュトリー ガリビエ	徳山町ヤ55-1	0761-58-2013
	JAグリーンはくい	太田町と80	0767-26-8741
羽咋市	ファーマーズベーカーリー	千里浜町タ1番地62 道の駅のと千里浜	0767-22-3891
	神子の里	神子原町は190	0767-26-3580
七尾市	のとしし団	飯山町ヲ32	0767-26-2944
	山本ジビエ処理施設	能登島須曾41-24	0767-57-2843
	狩女の会	能登島須曾41-24	080-9467-6965
登中郡	産直館 織姫市場	井田△10-1	0767-76-8000

掲載店舗のうち、一部の期間しかジビエを取り扱っていない場合がありますので、事前にお問い合わせ下さい。

イノシシおすすめレシピ

◎猪肉と根菜のポテトパイ

H29年度コンテスト最優秀賞

材料(1人前)

イノシシ肉 …………… 100g	黒コショウ …………… 3g
玉ねぎ …………… 50g	オリーブオイル …… 20g
にんじん …………… 50g	牛乳 …………… 30g
レンコン …………… 50g	バター …………… 30g
ニンニク …………… 10g	バニラアイス ……… 40g
ジャガイモ …………… 100g	ピザチーズ …………… 30g
塩 …………… 3g	パセリ …………… 10g



作り方

- ① フライパンにオリーブオイルを多めに入れ温める。
- ② イノシシ肉を包丁でみじん切りにする。
- ③ ①に②を入れ、塩、黒コショウをふりかけ炒める。
- ④ 根菜類をフードプロセッサーに入れ刻む。
- ⑤ ④を③に入れかき混ぜる。
- ⑥ ジャガイモの皮をむき、茹でてつぶし、牛乳、バター、バニラアイスを入れ混ぜる。
- ⑦ ⑤を耐熱皿に入れ⑥をうえにのせ、ピザチーズをかけ210℃のオーブンで20分焼く。
- ⑧ パセリを細かく刻み、黒コショウと一緒に⑦にかける。

◎加賀野菜の和風酢豚

H29年度コンテスト審査員特別賞

材料(1人前)

イノシシ肉(ブロック) …………… 100g	塩、片栗粉 …………… 3g
加賀れんこん …… 1/3 節	A (酢、醤油、砂糖 …… 3g ケチャップ、酒 …… 20g 鶏がらスープの素 …… 30g 水 …………… 30g
源助大根 …………… 2cm	
にんじん …………… 1/4 本	
玉ねぎ、赤・黄色パプリカ …… 各 30g	
すりおろしにんにく … 適量	にんにくの芽 …………… 40g
すりおろししょうが … 適量	水溶き片栗粉、油 …… 30g



作り方

- ① イノシシ肉を親指大に切り、にんにく、しょうが、塩で味付けをし、10分程度置いておく。
- ② れんこん、にんじん、大根の皮をむき、れんこんとにんじんは花型に、大根は乱切りにし、塩ゆでする。玉ねぎはくし切り、パプリカは乱切りにする。
- ③ フライパンに多めのサラダ油を熱し、片栗粉をまぶした①を揚げ焼きにする。
- ④ 油を他の容器に移し、そのまま根菜、玉ねぎ、パプリカの順に炒め、③を炒め合わせる。
- ⑤ Aを入れ、沸いたら水溶き片栗粉を加えとろみをつけ、皿に盛りつける。

◎治部ジビエカレー

H28年度コンテスト最優秀賞

材料(1人前)

イノシシ肉 …………… 70g	A	だし汁 …………… 200cc
加賀里いも …………… 2個		醤油 …………… 大さじ 1
加賀れんこん …………… 2cm		酒・みりん・砂糖 …… 各大さじ 1
にんじん …………… 1/6本		カレー粉 …………… 大さじ 1/4
ほうれん草 …………… 1/4把		小麦粉 …………… 適量
しいたけ …………… 1枚		わさび …………… 適量
塩 …………… 3g		金粉 …………… 適量



作り方

- ① イノシシ肉を食べやすい大きさに切る。
- ② 里芋の皮をむいて半分に切り、れんこんは皮をむいて厚さ1cm程度に切り、にんじんは1cm弱の輪切りにする。しいたけは飾り包丁を入れる。ほうれん草は茹でて4cm幅に切る。
- ③ 鍋にAと水溶きカレー粉を入れて、ほうれん草以外の野菜を煮る。
- ④ ③の汁を小鍋に入れて煮立たせ、小麦粉をまぶしたイノシシ肉を煮る。
- ⑤ ③に水溶き小麦粉でとろみをつける。
- ⑥ 器にイノシシ肉、野菜を盛り、汁をかけ、わさびをのせる。
※ごはんや焼きおにぎりなどに治部ジビエカレーをかけてカレーライスにもできます。

◎猪肉と里山のピリッと温野菜サラダ

H28年度コンテストいしかわジビエ利用促進研究会会長賞

材料(1人前)

イノシシ肉 …………… 60g	水菜 …………… 5g
塩糀 …………… 大さじ 1	酒 …………… 大さじ 1/2
さつまいも …………… 20g	水 …………… 100cc
かぶ …………… 20g	ゆず胡椒 …………… 少々
にんじん …………… 10g	ゆずの皮 …………… 1/8個分
ブロッコリー …………… 20g	ゆず味噌 …………… 適宜



作り方

- ① イノシシ肉は2cmの角切りにし、塩糀をもみこんでおく。
- ② さつまいも、かぶ、にんじんは1cmの角切りにし、ブロッコリーは小さめの小房に分ける。
- ③ 鍋に①とにんじん、酒、水を入れてしばらく煮て、さつまいも、かぶ、ブロッコリー、ゆず胡椒を加え、柔らかくなり水分が無くなるまで煮る。
- ④ 器にイノシシ肉と野菜を彩りよく盛り、2cmに切った水菜とゆずの皮の千切りを散らす。好みでゆず味噌を添える。

以下のホームページに他にもレシピが掲載されています。

<http://www.pref.ishikawa.lg.jp/satoyama/jibier/jibier.html>

日本最大の料理レシピサイト「クックパッド」でも公開中

<https://cookpad.com/kitchen/15015718>

いしかわジビエ

検索

Ⅲ 優良事例の紹介

石川県では、平成27年度からイノシシによる農作物被害の防止を目的とした「集落ぐるみの被害対策」や「イノシシの捕獲効率向上」などのモデル集落を選定し、県外の専門家による直接指導などの支援をしてきましたので、その中でも、優良な3事例を紹介します。

次ページには、モデル集落を指導していただいた県外の専門家を紹介します。

イノシシ豆知識1

●イノシシは夜行性？

- もともとは昼行性（昼間に活動）です。
- 人を怖がっている間は、人があまり活動しない夕暮れ以降に活発に活動しているだけです。
- 慣れると大胆になり、昼間でも堂々と出てきます。

●イノシシは「猪突猛進」のとおり突っ走る？

- 人に見つかってしまい生命の危険を感じた時などは、一目散に走って逃げます。このように人に見つかったときは大抵走っているため、「猪突猛進」のイメージがついてしまったのではないのでしょうか。

モデル集落の指導でお世話になった専門家



山本 麻希

所属先：長岡技術科学大学
工学研究科 生物機能工学専攻
野生動物管理工学研究室
役 職：准教授

プロフィール

- (一社)ふるさとけものネットワーク代表理事、NPO法人新潟ワイルドライフリサーチ会長などを歴任し、新潟県を中心に全国の自治体で鳥獣被害対策の支援や指導者養成、研修会の講師を務めるなど幅広く活躍する。
- (株)ういるこを設立し、集落環境診断や柵機能診断などを通じた住民ぐるみの獣害対策に取り組む。
- 農林水産省の農作物野生鳥獣被害対策アドバイザー



上田 剛平

所属先：株式会社
野生鳥獣対策連携センター
役 職：取締役

プロフィール

- 兵庫県の鳥獣行政担当として、ニホンジカやイノシシ、ニホンザルなどの被害対策や捕獲指導、人材育成などに従事
- 現在の所属に移ってからは、全国で被害対策や捕獲従事者の人材育成に関わり、環境省の認定鳥獣捕獲等事業者制度講習会の講師も務める。
- 環境省の鳥獣保護管理捕獲コーディネーター



服部 義和

所属先：河和田東部美しい山里の会
(福井県鯖江市)
役 職：事務局長

プロフィール

- 県内をはじめ北陸を中心に多くの自治体で集落・地域ぐるみで被害対策に取り組むための体制づくりの支援や、電気柵の設置や維持管理などを指導
- 自らも周辺集落と連携した被害対策に取り組む
- 農林水産省の農作物野生鳥獣被害対策アドバイザー

1 集落ぐるみの被害対策（獣害につよい集落づくり）

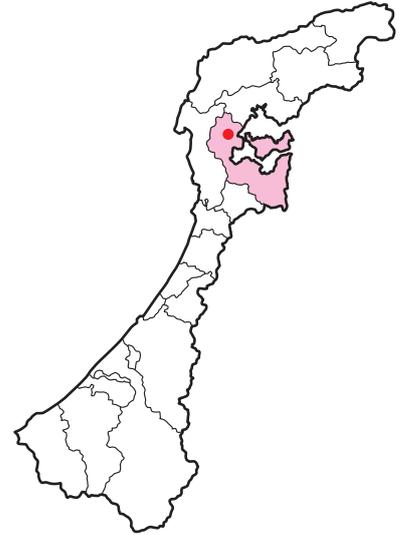
取組集落：七尾市中島町西谷内

（専門家：長岡技術科学大学 山本麻希 准教授）

1 集落の概要

- ・ 集落戸数：51戸（うち農家：22戸）
- ・ 被害の初発：平成27年
- ・ 電気柵の設置：農家が協力して設置
- ・ 電気柵の管理：それぞれの耕作者が実施
- ・ 年々被害が拡大し、順次電気柵を整備

年 度	H27	H28	H29	H30	累計
電気柵設置距離(m)	600	400	0	4,600	5,600



【課 題】

- ・ 農家の高齢化が進んでいる。
- ・ 集落が山林に囲まれている。
- ・ 電気柵の設置延長が延び維持管理の負担が増大。

2 取組内容

(1) 予備調査

（ 日 時：平成30年8月8日 14時～17時
場 所：西谷内営農センター及び西谷内集落内
参加人数：集落4名、七尾市役所1名、県2名 ）

◎集落代表者に聞き取り調査のうえ、専門家が現地の状況を調査

- ・ 集落戸数や被害対策の実施体制、市の支援体制などを聞き取り
- ・ 専門家目線で周辺環境や被害対策の実施状況、危険個所などをチェック



集落代表者への聞き取り調査



現地の事前調査

(2) 勉強会

（ 日 時：平成30年8月8日 18時～20時
場 所：西谷内営農センター
参加人数：集落11名、七尾市役所1名、県2名 ）

◎イノシシの生態や被害の特徴、被害対策などについて動画を交えて説明

- ・イノシシの生態と被害対策の基本（生息地管理、被害防除、個体管理）
- ・先進事例の紹介
- ・鳥獣害は自然災害と同様に、自助、共助、公助での対応が必要
- ・集落点検（集落環境診断）の目的、手法



イノシシ勉強会の様子

(3) 集落点検

（日 時：平成30年8月9日 9時～12時）
（場 所：西谷内集落内）
（参加人数：集落6名、七尾市役所1名、県2名）

◎集落の住民自らが、専門家とともに集落を巡回し、農地の利用状況や被害対策の実施状況、被害箇所や痕跡、エサとなる果樹や棲み処となる雑草地などの現地の情報を地図に記載

- ・予備調査で確認した対策の不備やチェックポイントについて、現地で専門家が参加者に対して説明
- ・放棄された果樹（カキ、クリなど）が多い
- ・家庭菜園でハクビシンによる野菜や果樹の被害あり
- ・耕作放棄地のすぐ横の水田に設置してある電気柵の高さが不適切
- ・電気柵が夜間通電となっていた
- ・用水路（大排水）がイノシシの通り道の可能性あり
- ・電気柵のアース線が草刈りの際に切断されていた



集落住民と現地を巡回



夜間通電の電気柵



切断されたままのアース線



カボチャの食害

(4) ワークショップ

日 時：平成30年8月9日 13時～16時

場 所：西谷内営農センター

参加人数：集落6名、七尾市役所1名、県2名

◎集落点検で得られた現地の情報を地図に転記し、
そこから読み取れる集落の課題を洗い出し



みんなでマップづくり



イノシシマップ

【集落から出された課題】

- ・ 果樹が多い
- ・ 森とつながる耕作放棄地が多い
- ・ 空き家が多い
- ・ 電気柵の無い農地が多い
- ・ 箱わなが少ない（捕獲者が少ない）
- ・ 侵入経路となる水路がある
- ・ 電気柵の張り方に不備がある など

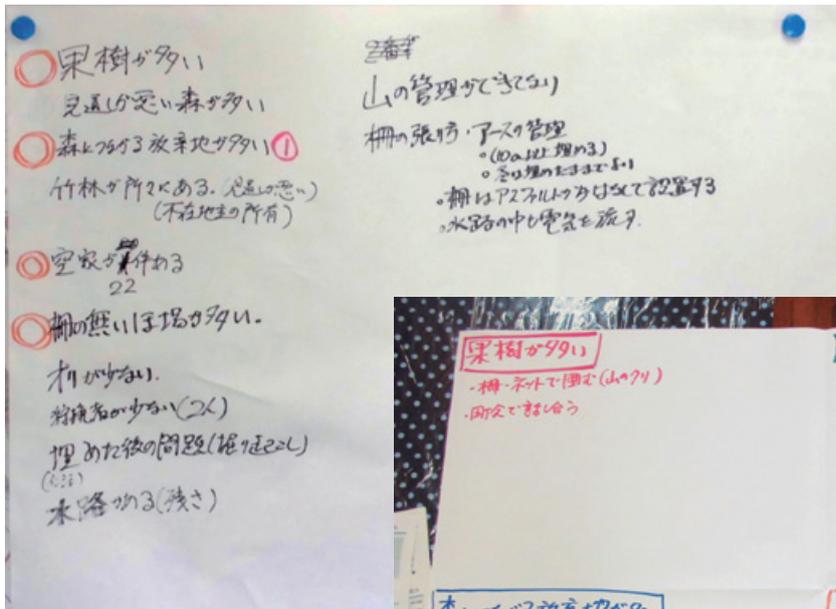


専門家の意見をもらいながら課題出し

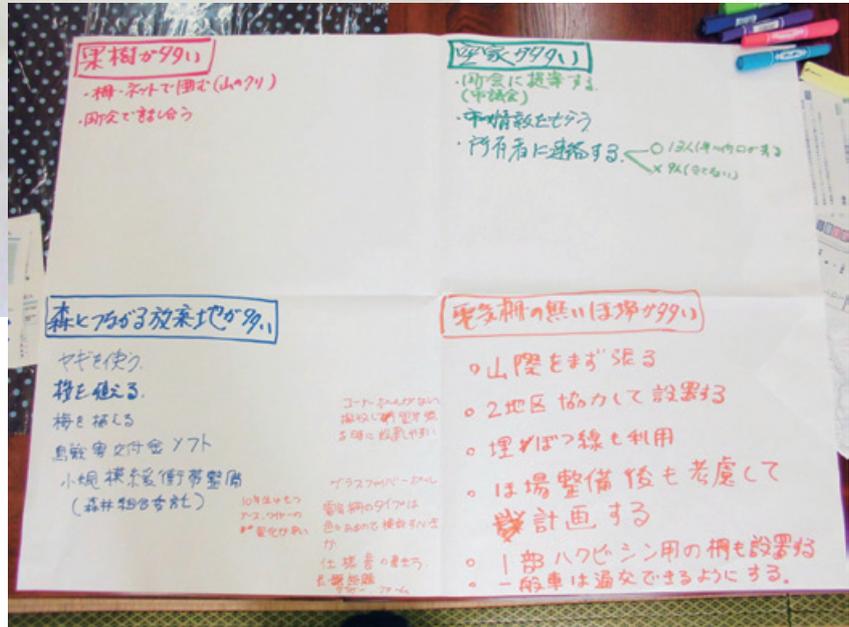


◎住民自らが優先度の高い3～4課題を多数決で選び、その対策を検討

課 題	対 策
①果樹が多い	<ul style="list-style-type: none"> ・ 集落の話し合い（伐採の相談） ・ 柵やネットで囲う
②森とつながる耕作放棄地が多い	<ul style="list-style-type: none"> ・ ヤギによる除草 ・ 桜や梅の植樹 ・ 緩衝帯の整備（交付金を活用）
③空き家が多い	<ul style="list-style-type: none"> ・ 町会・市議会への提案 ・ 所有者への連絡
④電気柵の無い農地が多い	<ul style="list-style-type: none"> ・ 山際への柵の設置（交付金を活用） ・ 2地区で協力して設置 ・ 圃場整備も考慮して柵の整備を計画 ・ 埋没線を活用し車両の通行を確保



集落から出された課題



優先度の高い課題とその対策案

【従来の活動】

- ・草が伸びたら農家が個別に草刈りを実施
- ・草刈りに併せて電気柵の見回りを実施
- ・集落役員が1日1回(朝)、電気柵の電圧を測定
- ・電圧の極端な低下などの異常時は集落役員が見回り、異常箇所を修繕
- ・狩猟免許所持者が箱わなへの誘引(工サやり)

電気柵管理の班分けと当番表(案)

電気柵担当割			班員			
	延長	責任者				
No. 1	400m	山本	本田	田中	山田	高橋
No. 2	250m	山本	本田	田中	山田	高橋
No. 3	800m	鈴木	村井	松田	上出	谷口
No. 4	200m	石川	小林	坂本	橋本	中川
No. 5
No. 6
No. 7
No. 8

電気柵 (No. 1) 点検当番表		管理責任者: 山本						H30.8月
	月	火	水	木	金	土	日	
担当者			山田	山田	山田	山田	山田	
電圧(kV)								
担当者	6	7	8	9	10	11	12	
電圧(kV)	高橋	高橋	高橋	高橋	高橋	高橋	高橋	
担当者	13	14	15	16	17	18	19	
電圧(kV)	山本	山本	山本	山本	山本	山本	山本	
担当者	20	21	22	23	24	25	26	
電圧(kV)	本田	本田	本田	本田	本田	本田	本田	
担当者	27	28	29	30	31			
電圧(kV)	田中	田中	田中	田中	田中			

※電圧はできる限り朝8時までに測定

3 成果と反省

(1) 成果(住民の反応)

- ・ 集落全体の被害対策への関心度が高まった。
- ・ 対策の実施状況や集落環境、被害状況などを地図に落とし込むことで、集落の被害要因が見えてきた(被害の見える化)。
- ・ 地図を用いたことで農家以外の住民にも分かりやすく情報共有できた。

(2) 反省点

- ・ 電気柵の未設置個所に被害が拡大したことで被害額が増加した。
- ・ 農家以外の住民の理解は進んだものの被害対策への参画には至らなかった。

被害額の推移

年度	H27	H28	H29	H30
被害額(千円)	24	49	63	142

4 今後の取組

- ・ 電気柵が未設置の農地に電気柵を設置する(事業要望)。
- ・ まずは農家が共同で電気柵の維持管理を実施し、農家以外の住民も含めた対策の体制づくりを進めたい。
- ・ ヤギの放牧やハンマーナイフモアによる耕作放棄地等の除草を進めたい。

(スケジュール)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
打合せ	○			○			○			○		
草刈り		○	○	← 1~2週間毎 →				○				
	(ヤギ放牧や共同機械による除草の検討)											
電気柵			設置	← 点検・管理 →				撤去				
果樹対策	←			所有者への連絡、収穫、伐採						→		



イノシシ豆知識2



●イノシシは防護柵を跳び越える？

- 野生動物は脚をケガすると逃げれない、エサを探せないなど、致命的な事態に陥るため、基本的には跳ばずに下から潜り込もうとします。
- 安全が確認できた場合や、逆に生命の危険を感じて逃げる場合には、障害物を跳び越えることもあります。
- 逃げるときに柵を跳び越えるイノシシを見て、「入るときも跳んだはず」と考えてしまいがちですが、必ず柵のどこかにミスがあるから侵入されるのです。

●後ろ向きで電気柵を突破するイノシシがいる？

- 「柵を跳び越えてきた」と考える場合と同じです。
- どこかでダミー柵や管理の悪い電気柵に触れて、「ただの紐」だと学習してしまったイノシシかもしれません。
- イノシシに悪い学習をさせないように、防護柵は適切に設置、維持管理しましょう。

●イノシシの嫌いな食べ物で農地を囲えば大丈夫？

- トウガラシやシソなどは被害に遭いにくいですが、イノシシが「エサと認識していない」だけで、無視して入ってくる危険があるので、過信はできません。

●光や音、ニオイで追い払える？

- 光や音、ニオイなどの忌避資材を使用すると、急な環境の変化によって一時的に警戒心が高まりますが、すぐに慣れてしまうため、短期的・限定的な効果しか期待できません。
- 長い間使い続けると、この光や音、ニオイのある場所には「エサがある」と結び付けて覚えてしまう恐れもあります。

2 イノシシの捕獲効率向上

取組集落：輪島市町野町金蔵

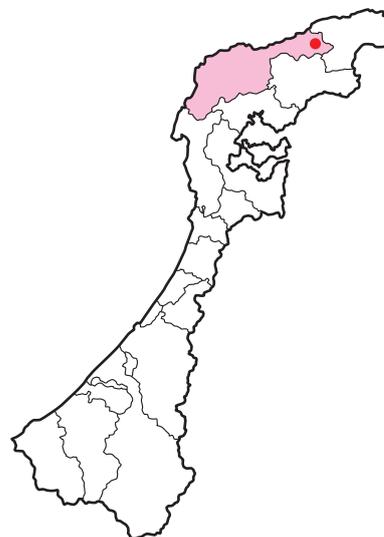
(専門家：株式会社野生鳥獣対策連携センター 上田剛平 取締役)

1 集落の概要

- ・ 集落戸数：64戸
- ・ 被害の初発：平成25年
- ・ 電気柵の整備：平成27年から集落の外周を囲うように、延べ8,500mを8ブロックに分けて設置
- ・ 電気柵の管理：ブロックごとに管理責任者と担当者を決め、定期的に維持管理
- ・ 電気柵の設置以降は被害の発生無し

【課題】

- ・ 農地が道路沿いに広がっており、電気柵の開口部の対策が必要
- ・ 捕獲に取り組んでおらず、集落周辺での目撃や掘り返し被害が多くなっており、生息数の増加が懸念される



2 取組内容

(1) 集落調査

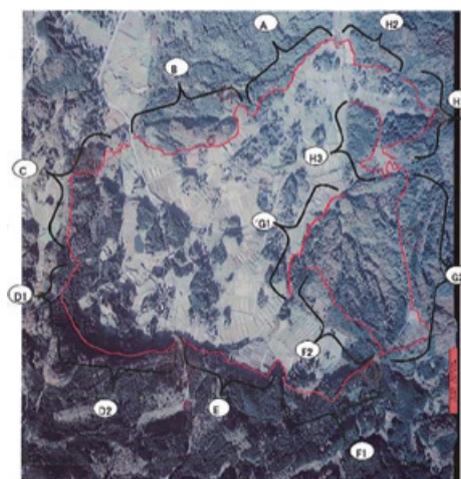
日 時：平成28年9月5日、15日
13時～16時

場 所：金蔵集会場、金蔵地内

参加人数：集落5名、輪島市役所1名、県1名

◎集落代表者に聞き取り調査のうえ、専門家が現地
の状況を調査

- ・ 集落戸数や被害対策の実施状況などを聞き取り
- ・ 集落の周辺環境や被害対策の実施状況、箱わなの運用状況などをチェック



電気柵管理のブロック分け



集落代表者への聞き取り調査



被害対策の実施状況とイノシシの痕跡の調査

(2) イノシシ捕獲技術講習会

（日 時：平成28年9月25日 13時～17時）
（場 所：金蔵集会場、金蔵地内）
（参加人数：集落7名、輪島市役所1名、県2名）

◎イノシシの生態と被害対策、効率的な捕獲などについて説明

- ・ イノシシの生態と被害対策の基本
（生息地管理、被害防除、個体管理）
- ・ 被害対策の担い手の考え方
- ・ 被害対策のためのイノシシの効率的な捕獲



電気柵管理のブロック分け

(3) 集落指導

（日 時：平成28年10月20日、11月16日、12月12日）
（場 所：金蔵地内）
（指導対象：集落2名(有害鳥獣捕獲隊員)、捕獲協力者、輪島市役所）

◎箱わなの設置場所

- ・ 専門家の調査で確認したイノシシの痕跡情報に基づき、効率的にイノシシを捕獲できそうな候補地を提示
- ・ 集落に箱わなの数が少ない（1基）ため、箱わなの増設を指導



箱わな設置場所の指導

◎箱わなへの誘引方法（餌付け）

- ・ 箱わなの設置場所を決定する前に、候補地に事前にエサを撒き（事前の餌付け）、イノシシの寄り付き具合を調査のうえ箱わなを設置
- ・ 最初は箱わなの外からエサを撒き、徐々に箱わなの奥に誘導する
- ・ 仕掛けのケリ糸はイノシシが慣れるように最初から設置し、扉はロックしておき、箱わなに十分慣らしてから捕獲する



事前の餌付け指導

◎箱わなの構造

- ・ メッシュが15cm間隔であり、イノシシの幼獣であれば脱出が可能である。
- ・ 作りそのものが頑強でなく、大型のイノシシが捕獲された場合に破壊される恐れがある。
- ・ 仕掛け部分が複雑であり、捕獲時に誤作動する恐れがある。



箱わなの改善指導

◎成獣を含む群れの捕獲

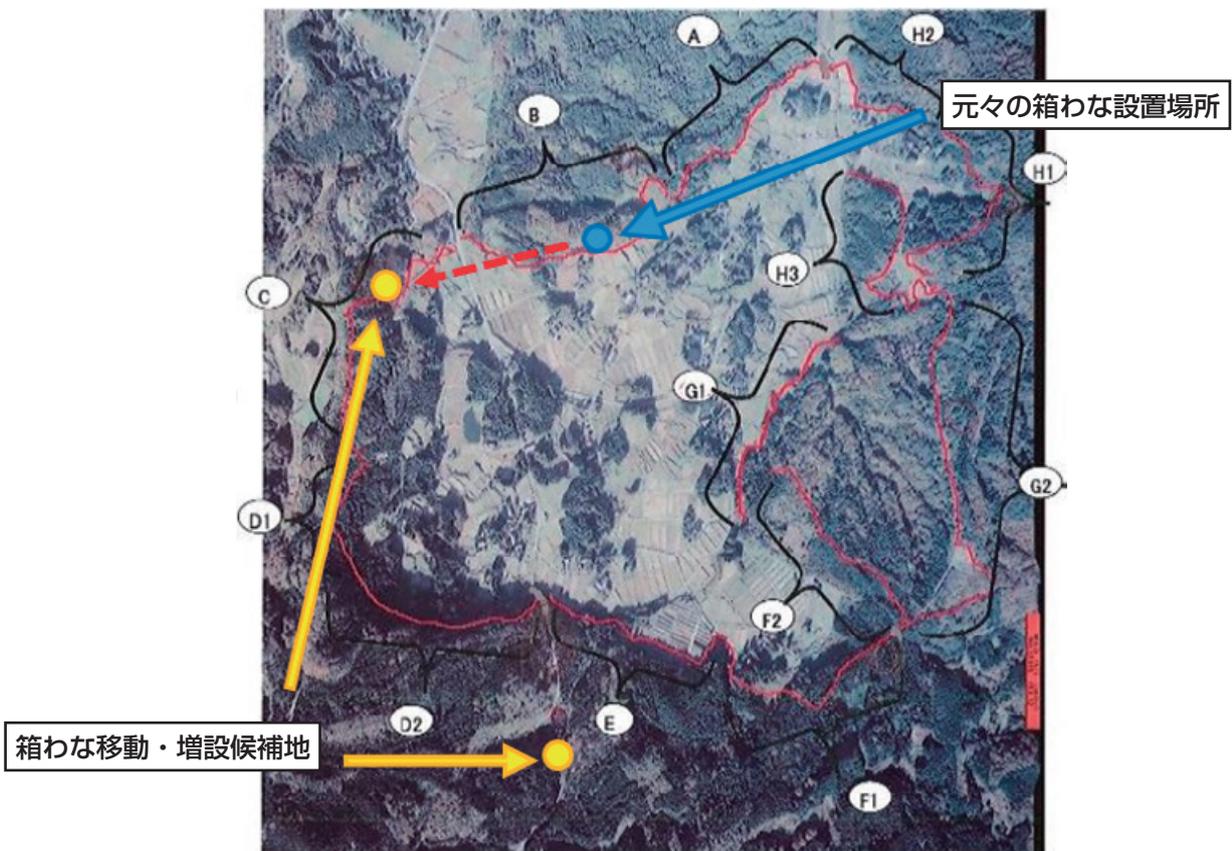
- ・ 仕掛けのケリ糸は箱わなに幼獣が入っても触れない高さに設定する。

◎電気柵の効果の維持

- ・ 電気柵を適切に維持管理してイノシシに農作物を与えないことで、相対的に箱わなの中のエサの魅力を上昇させる。



仕掛けの改善指導



【イノシシ捕獲効率向上のポイント】

課題	良い点	改善が必要な点	集落への提案
捕獲支援体制	<ul style="list-style-type: none"> ・ 捕獲隊2名を中心に、捕獲に関わる人員が確保されている。 ・ 住民からイノシシの目撃情報や痕跡の情報を収集する体制が整っている。 		
箱わなの設置場所		<ul style="list-style-type: none"> ・ 古い痕跡や情報をもとに設置場所を選定 ・ 電気柵の開口部対策が不足 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新しい情報に基づき箱わなを移設、増設 ・ 電気柵の開口部付近での捕獲が必要

箱わなの設置状況		<ul style="list-style-type: none"> ・適切に管理されず雑草に埋もれている 	<ul style="list-style-type: none"> ・箱わなの中と周辺は除草して見通しを良くする
誘引(餌付け)状況		<ul style="list-style-type: none"> ・いきなり箱わなの中にエサを入れている ・一度に大量のエサを撒いている 	<ul style="list-style-type: none"> ・箱わなの外の獣道からエサを撒き始める ・毎日少しずつエサを撒き、徐々に箱わなに近づけ、中に誘導する
箱わなの構造		<ul style="list-style-type: none"> ・箱わなのメッシュが粗い ・箱わなの強度が不足している ・仕掛けが複雑 	<ul style="list-style-type: none"> ・10cm間隔のワイヤーメッシュや筋交いを入れるなどの補強をする ・シンプルな仕掛けに改良する

3 成果と反省

(1) イノシシ捕獲数の推移

年度	H26	H27	H28	H29	H30
捕獲数	0	0	10	49	97

(2) 被害額の推移

年度	H26	H27	H28	H29	H30
被害額(千円)	378	0	10	0	186

3 複数集落で取組む被害対策

取組集落：志賀町尊保・阿川地区（構成集落：尊保(そんぼ)、阿川(あこう)）
（専門家：河和田東部美しい山里の会 服部義和 事務局長）

1 地区の概要

- ・地区戸数：約20戸
- ・活動主体：ザ・そんぼ夢創の会(※)
- ・被害の初発：平成25年
- ・電気柵の設置・管理：H26、H27は個別農家
H28から地区の農家が協力

年度	H26	H27	H28	H29	累計
電気柵設置距離(m)	2,200	4,500	2,550	860	10,110

※自然豊かな故郷を次世代に残そうと地区の全住民で結成した各種村おこし活動を展開する村づくり団体

2 取組の経緯

平成25年度よりイノシシによる水稻被害が発生し始めたため、「ザ・そんぼ夢創の会」の活動の一環として、夜間パトロールや夕方時の花火・爆竹の使用による追い払い、ドラム缶を利用した巨大鹿威しの製作などに取り組んだ。

しかし、これらの取り組みに対して、イノシシが慣れ始め対策の効果が上がらなくなったことから、別の被害対策を検討する必要がある。

年度	H25	H26	H27
被害額(千円)	38	269	76



3 取組内容

(1) 集落点検・被害対策講習会

（日 時：平成27年10月28日 13時～16時）
（場 所：尊保・阿川地内）
（参加人数：集落11名、志賀町役場1名、県3名）

◎イノシシの生態と被害対策の基本について講義

◎専門家が現地の状況を調査

・ 専門家目線で周辺環境や被害対策の実施状況、危険個所などをチェック

◎集落点検の結果を踏まえた被害対策の提案

・ 林縁部の藪を刈り払う緩衝帯の整備を提案

・ 個別の被害農地を囲っていた電気柵について、地区の外周を囲うように変更し、整備した緩衝帯の内部に電気柵を設置するよう提案



集落点検



被害対策講習会

4 成果と反省

年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30
被害額(千円)	38	269	76	0	0	0

(1) 取り組み

- ・ 講習会后に、地区の会合で電気柵の設置費用や維持管理、設置場所等について検討し、地区の合意形成を図った。
- ・ 平成27年度中に森林環境基金事業を活用し緩衝帯を整備
- ・ 緩衝帯の維持管理は3班体制で年間20回余り（ほぼ毎週）活動（活動経費は多面的機能維持管理支払を活用）



緩衝帯整備の作業風景



- ・平成28年度から人家を含めた地区全体を囲うように、一部の電気柵を緩衝帯内部に移設することで、被害防止効果を高めるとともに設置延長を短縮して、草刈り等の管理を軽減
- ・電気柵の管理（草刈り等）は、本体毎に責任者を決め、責任者の指示のもと各個人が実施



緩衝帯に設置した電気柵



電気柵の管理責任者

(2) 効果（住民の反応）

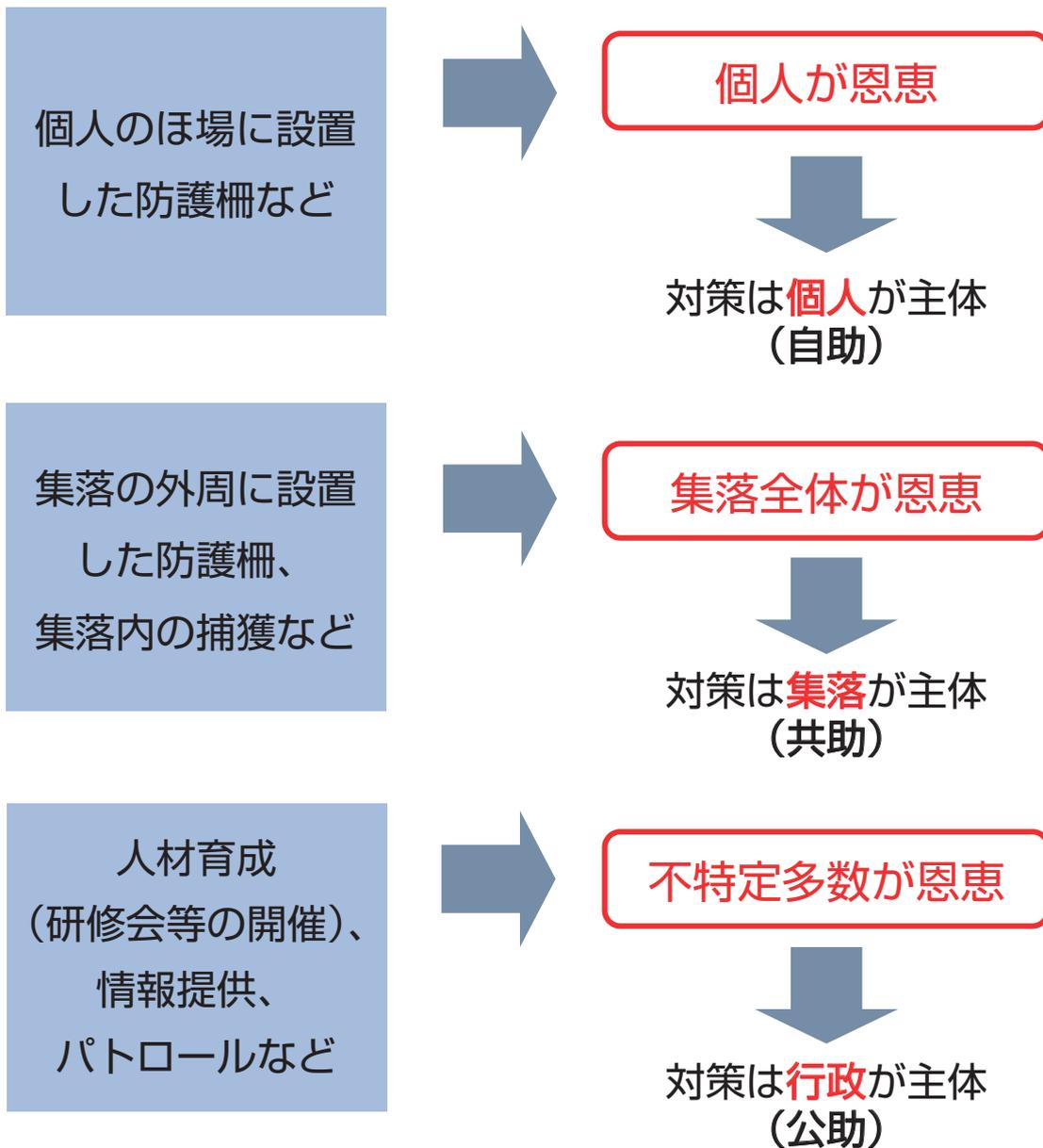
- ・イノシシの目撃は増加し、道路脇や耕作放棄地で掘り返し等の被害が多くなっているものの、平成28年度以降は被害をほぼ抑えている。
- ・集落外周に電気柵を設置したことで、個別に囲うより設置延長が短くなり、早期に区域全体をカバーすることができた。
- ・個人の対策ですぐに隣の圃場に被害が出るため、地区全体の問題として取り組みを進めたことで被害が軽減できたので、今後も継続して取り組みたい。
- ・年間通して土日を作業実施日としたことで、集落内の会話が必然的に増え、地域の結びつきが強まった。

(3) 反省（改善が必要な点）

- ・毎年の電気柵の設置・撤去労力を軽減するため、冬も電気柵を外さず、張ったままとしている。
- ・電気柵は、稲刈り以降は電池の寿命を延ばすため夜間通電としている。

IV 被害対策はだれがやる？

その対策を実施することで
「誰が恩恵を受けるのか」を考える



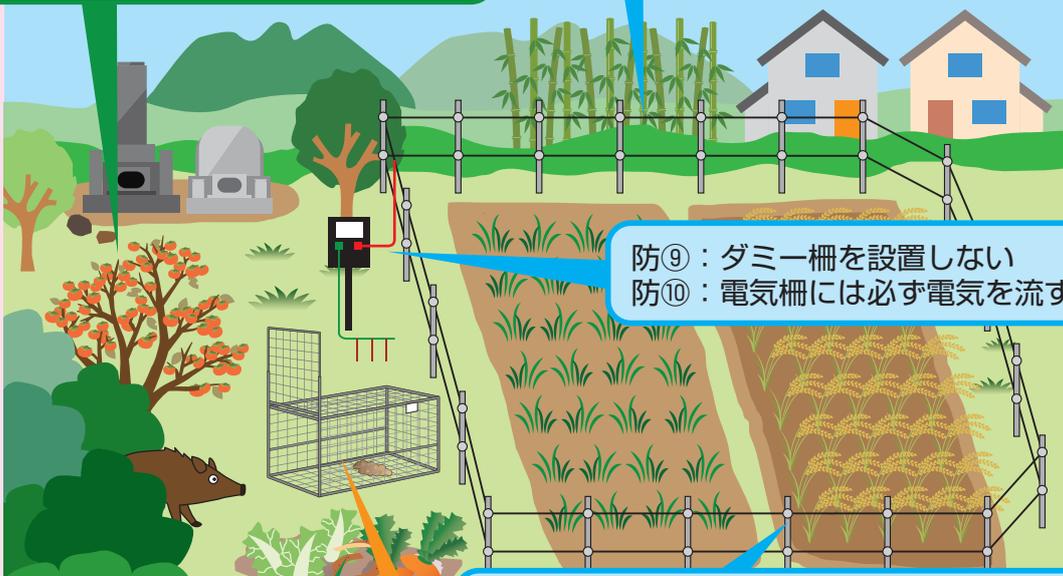
鳥獣被害は災害と同じです。個人、集落（地域）、行政がそれぞれの役割を分担・連携して対応することで、対策の効果があがります。

V イノシシ被害対策チェックシート

	チェック項目	○・×
体制整備	体① イノシシ対策は地域全体の問題として集落みんなで取り組んでいる。	
	体② イノシシ対策についてみんなで話し合う場を設けている。	
	体③ 被害防止の目標を立て、具体的な取り組みを決めている。	
	体④ 被害を受けたらすぐに対処して、繰り返し被害を受けないようにしている。	
生息環境管理	環① 誰も管理していないカキやクリなどの放任果樹は、すべて収穫するか、伐採するなど適切に管理している。	
	環② 廃棄野菜や収穫残さは、農地にそのまま捨てずに、穴に埋めたり防護柵の内側に入れるなど、イノシシをおびき寄せないように処理している。	
	環③ 水稻の収穫後は「ひこばえ（2番穂）」が生えないように、秋起こしをおこなっている。	
	環④ 竹やぶを管理して、タケノコをできるだけ収穫している。	
	環⑤ 耕作放棄地の雑草や農地周辺の林縁部の草木などを刈り払って、イノシシの隠れ場所を減らしている。	
防護	防① 電気柵などの防護柵は集落で話し合って設置、管理を行っている。	
	防② 防護柵は、複数の農地を一緒に囲うなど、効率的な設置を心掛けている。	
	防③ 金網柵やワイヤーメッシュ柵などの恒久柵であっても、定期的な見回りを行っている。	
	防④ イノシシに侵入されたときはすぐに対処して、防護柵の改善を行っている。	
	防⑤ 電気柵は漏電しないように定期的に草刈りを行っている。	
	防⑥ 毎日、電気柵の電圧を測定し一定の電圧（5 kV以上）を維持している。	
	防⑦ 防護柵の管理スペースを確保するなど、適切な維持管理ができるようにしている。	
	防⑧ 防護柵は地形に合わせて隙間の無いように設置している。	
	防⑨ ダミー柵（ビニールひも、有刺鉄線、通電していない電気柵など）を設置していない。	
	防⑩ 電気柵は24時間常に通電している。	
	防⑪ 光や音、臭いによる忌避効果を狙った資材を常用していない。	
捕獲	捕① 被害を出すイノシシ（加害個体）を捕獲している。	
	捕② 防護柵の切れ目となる開口部付近で捕獲している。	
	捕③ 地域で狩猟免許の取得に取り組んでいる。	
	捕④ 捕獲隊（猟友会）としっかり連携している。	

防①：集落で話し合って設置、管理する
防②：複数の農地を一緒に囲う

環①：放任果樹を収穫または伐採する



防⑨：ダミー柵を設置しない
防⑩：電気柵には必ず電気を流す

環④：雑草地を管理する

防③～⑦：定期的に見回りし、適切に維持管理する
防⑧：地形に合わせて隙間なく設置する

捕①：加害個体を捕獲する
捕③、④：地域が協力する体制の整備

環②：収穫残さ等を適切に処理する
環③：ひこばえが出ないように秋起こしする

●参考文献等

- ・株式会社農文協プロダクション
みんなで防ぐ！鳥獣被害対策マニュアル
※許可を得て引用しています。

相談窓口(お問い合わせ先)

○ 被害対策、有害捕獲について

市町担当課	所在地	電話番号
加賀市 農林水産課	加賀市大聖寺南町二41	0761-72-7884
小松市 農林水産課	小松市小馬出町91	0761-24-8081
能美市 農政課	能美市寺井町た35	0761-58-2256
川北町 産業経済課	川北町字壱ツ屋174	076-277-1111
白山市 林業水産課	白山市鶴来本町4-又85	076-272-1965
野々市市 産業振興課	野々市市三納1-1	076-227-6081
金沢市 農業水産振興課	金沢市広坂1-1-1	076-220-2214
津幡町 農林振興課	津幡町字加賀爪二3	076-288-6704
内灘町 地域振興課	内灘町字大学1-2-1	076-286-6708
かほく市 産業振興課	かほく市宇野気二81	076-283-7105
羽咋市 農林水産課	羽咋市旭町ア200	0767-22-1116
宝達志水町 農林水産課	宝達志水町子浦そ18-1	0767-29-8240
志賀町 農林水産課	志賀町末吉千古1-1	0767-32-9224
中能登町 農林課	中能登町井田4部1-1	0767-76-2434
七尾市 農林水産課鳥獣被害対策室	七尾市袖ヶ江町イ25	0767-53-8422
穴水町 産業振興課	穴水町字川島ラ174	0768-52-3671
輪島市 農林水産課	輪島市二ツ屋町2字29	0768-23-1141
能登町 農林水産課	能登町字柳田仁部54	0768-76-8302
珠洲市 産業振興課	珠洲市上戸町北方1字6-2	0768-82-7767

○ 共済、被害対策について

関係機関	所在地	電話番号
NOSA 石川	金沢市田中町か26番地1	076-239-3111
J Aグループ石川営農戦略室	金沢市古府1丁目220番地	076-240-5051

○ 各地域の被害対策、鳥獣管理、狩猟、有害捕獲について

農林総合事務所	所在地	電話番号
南加賀農林総合事務所 管理部企画調整室	小松市園町ハ108-1	0761-23-1707
石川農林総合事務所 管理部企画調整室	白山市馬場2丁目113番地	076-276-0528
県央農林総合事務所 管理部企画調整室	金沢市直江南2-1	076-239-1750
中能登農林総合事務所 管理部企画調整室	七尾市小島町二部33番地	0767-52-2583
奥能登農林総合事務所 管理部企画調整室	輪島市三井町洲衛10部11番1	0768-26-2322

○ 県庁行政窓口

担当課	所掌	電話番号
農林水産部 農業安全課	被害対策	076-225-1626
農林水産部 里山振興室	獣肉利活用	076-225-1631
生活環境部 自然環境課	野生鳥獣管理、狩猟、有害捕獲	076-225-1477